

大学名 横浜国立大学

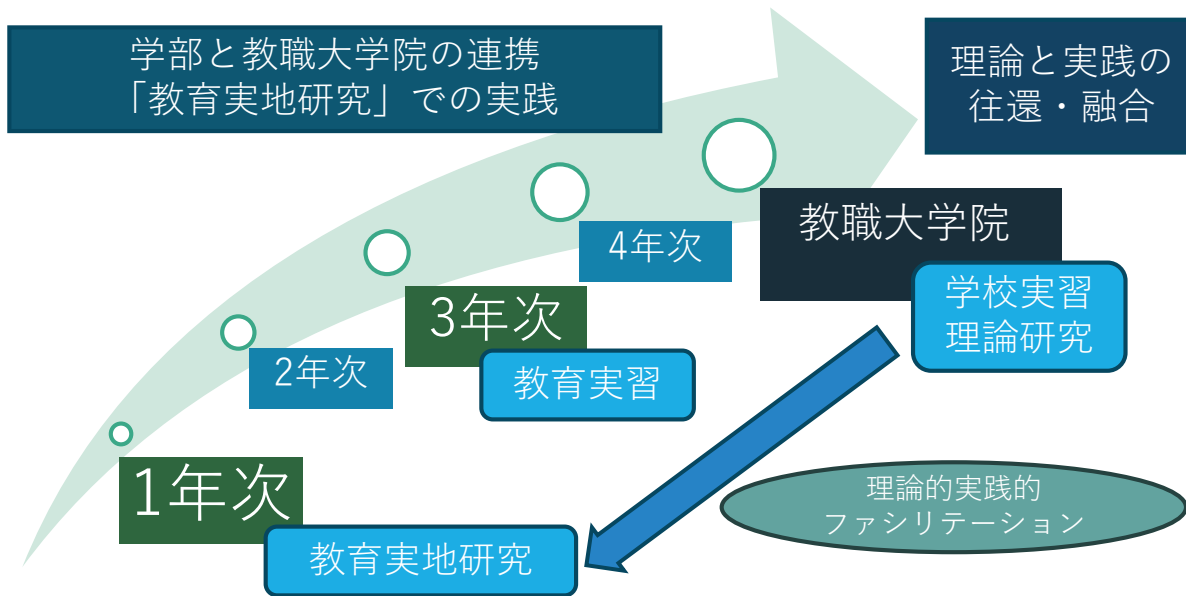
第74号 特集タイトル
「未来社会に向けた教員養成」

表題 学部と教職大学院が連携し、理論と実践の往還を深める実践事例

横浜国立大学は2021年度に教育学部と教職大学院の連続性を考慮した改組を行った。これまで、学部では教育現場に入りながら理論的視点に基づく授業観察等を行う1年次生対象の必修授業「教育実地研究」を開講し、3年次の教育実習に向けて初年次から実践的な教員養成を行っている。一方教職大学院では、理論と実践の往還・融合を通じて教育課題の解決に関わる実践研究力と総合的な教師力の向上に取り組んでいる。これら旧来の取り組みを発展的に統合し、教職大学院生が「教育実地研究」にメンターとして関わり、授業観察の仕方等を学部生にアドバイスしながら学習効果を高める活動を開始している。

例えば理科領域では、中学校第1学年理科「音の性質」の単元で、授業観察前に授業者への質問の内容を吟味し、授業観察では大学院生がリーダーとして参加、授業後の協議会ではコーチング理論を踏まえてファシリテートした。最終的にアンケートを実施し、「教師が主導権を取って授業を進める」といった理解から「教師が子どもの思考等を見取りながら、子どもの学習をつくっていく存在」へと学生の理解が変化していくことが確認された。

国語領域では、教職大学院生による研究授業を中心に、中学生・学部生・大学院生が相互に学び合う場を設定した。大学院生が学校実習先で撮影した授業動画をもとに「グループワークへの介入の仕方」を学部生に伝える授業を行った後、教職大学院生による授業（中学校第1学年「読むこと」「デジタル紙芝居を作成しながら、描写を基に場面の展開を捉える単元」）において、生徒たちのグループワークを学部生がファシリテートした。さらに授業終了後、大学院生がリードするかたちで本授業の振り返りを行い、議論を深めた。この事例では学部生が単に授業を観察するのではなく、大学院生が行っている授業に主体的に参加することで、多層的な学びの場を実現できた。今後は他の領域にも取り組みを広げて、教育効果を高めていく。



教育学部ウェブサイト <https://www.edu.ynu.ac.jp/>

教職大学院ウェブサイト <https://pste.ynu.ac.jp/>

和田一郎「横浜国立大学における学部と教職大学院の連携・接続の充実に向けて」<https://ynu.repo.nii.ac.jp/records/12215>

授業観察



理科の事例 大学院生がファシリテートする

振り返り協議会

教職大学院生が、「議論と学習」および「コーチング」の理論を踏まえてファシリテート



見取りの視点を議論



国語の事例 中学生、学部生、大学院生が学びあう

授業での実践

